



Subaru

男声合唱団 ニュース№694 19. 6. 18

13回コンサート予定曲と19年合発曲を 引き続きレッスン！

6月16日

□6月16日(日)14:00~17:00昴定例レッスンが開催されました。

佃さんの体操・吉岡さんの滑舌訓練・千秋さんのヴォイストレーニングにはじまり、本並先生の指揮で、まず「昴はうたう」(千秋昌弘作詞・森二三作曲)をレッスンしました。「昴はうたう」は昴の初めての創作曲で、昨年8月に第1稿を作詞作曲。その後作詞・作曲者で推敲を重ね、第13回コンサートの第3部の最後の曲として歌おうというところまできました。レッスンを重ねて「昴の歌」にしていきましょう！



休憩・連絡事項の報告をはさんで、引き続き、本並先生の指揮で、「方正の青い空」と「U Boj!」をレッスンしました。2曲ともアカペラ・男声4部の新曲での挑戦です。13回コンサートでの「昴の新しい魅力」を聴衆の皆さんに聴いていただくことになります！

最後に、今年の合発曲「日々草」「朝露」を、本番に向けて細部をチェックし、集中力を出して復唱しました。ピアノ伴奏は森二三さん。参加者は全31名でした。(なお、副指揮者の伊藤さんは「全国指揮合唱講習会」(6/14~6/16 日本のうたごえ協議会主催 長野県松本市)に研修・出張されました。)

「昴はうたう」の歌詞の変更

41~42小節：「Ah Ah AhAhAhAh-----」 ⇒ 「Ah Ah うたおうーー」へ

「U Boj!」の歌詞の変更

原語の歌詞は1番・2番とありますが、1番を2回繰り返して歌います。2番は歌いません。

連絡事項

(1) 鳴の市内南部合唱発表会：7月28日(日) 鶴見区民センター

参加団体：14 本番9番目(14:06~)選出：5団体+前回シード2団体、交流・小編成・オリジナル計5団体 要員：ドアマン(吉岡)、審査員(大畠) 参加費：700円

(2) オリジナル発表会 9月22日(日) ピアーレ大阪(本町)

「方正の青い空」「鳴はうたう」の2曲で団として参加します。2曲とも練習の途中であり、発表までまだまだの段階ですが、鳴としての創作曲を大阪の合唱団として発表する機会です。参加できる方向で努力しましょう！

(3) 日本のうたごえ祭典2019(京都祭典)の出演について

「音楽会Ⅲ」(テーマ：平和のバトン)で「労働者の合唱：歌劇沖縄(男声合同)」で鳴は参加します。

(4) 大阪のうたごえ祭典(2010年2月23日 フェニーチェ堺)の企画案が発表されました。

なお、京都祭典・大阪祭典については、その詳細は後日のニュースでお知らせします。

(5) 2019年鳴総会の開催について

2019年8月11日(日)～12日(月・休)：新大阪ユース

1年の鳴の総括と今後1年の鳴の活動方針を決める大事な総会です。各自の予定に入れてください。
なお、議案書づくりに関係各位はご協力お願いします。



鳴13回コンサート
コーナー

●13回コンサートの第2部出演(ゲスト20分)を依頼していましたナターシャさんはご本人の健康上の都合により、出演辞退の連絡がありました。あらたに「音登夢(おととむ)」に依頼しました。快諾です！バイオリン・チェロ、コンサートの音楽集団「音登夢(おととむ)」

Welcome to Ototom Music World ヴァイオリン(木村直子さん)とチェロ(木村政雄さん)のデュオホームページを検索、ご覧ください。<http://ototom.com/>

●「方正の青い空」関係のニュース

No.694(2/5)

「方正」について (岡邑さんから投稿いただきました)

広島・長崎の原爆で21万人、沖縄戦では19万人の人々が犠牲になりました。

しかし中国の満州で22万5千人もの人が犠牲になった事はあまり知られていません。

この「方正」の歌は、あまり知られていないその歴史の一こまに光りをあてたものです。

第2次世界大戦の終戦間際、ソ連軍が参戦、関東軍は開拓民を置き去りにして逃亡しました。

満州の中で犠牲者がもっと多かったのが「満蒙開拓団」と「満蒙義勇隊」で合わせて32万2,000人の内8万人が犠牲になりました。

もともと中国の土地である旧満州に国策として送り込まれた開拓民はソ連の参戦、敗戦の報せで逃げ惑いました。零下40度という酷寒にさらされ、飢えと栄養失調、発疹チフスなどでこの方正で亡くなつたのです。

それから数年、累々たる白骨の山を見た残留婦人が埋葬したいと申し出、その声はやがて、周恩来首相に届き許可されました。

墓石はイタリア製の花崗岩で有名な書家が「方正地区日本人公墓」と碑銘を刻みハルビンから2日がかりで運ばれました。日中が国交を回復する10年も前の事でした。

文化大革命の時、紅衛兵たちが、この墓を破壊しようとした。しかし黒竜江省政府は「これは日本軍の墓ではない。日本の庶民の墓である。彼らに罪はない」と紅衛兵の要求を退けました。その後も、墓守をおき、長年にわたって日本人公墓を守り続けてくれているのです。

中国で唯一の日本人公墓には5000人近い死者が眠っています。そしてこの公墓は黒竜江省の山間地に今日も静かにたたずんでいます。



1940年の満州の人口

満州人(漢族、満州族)	38,885,562人
日本人	2,128,582人
その他白系ロシア人含む	66,783人

合計

41,080,927人

日本人の中に朝鮮人を含む。
朝鮮人の中に台湾人を含む
日本人のみは819,582人

●今日、「星火方正」5月号に次の記事を見つけました。長野県の「満蒙平和記念館を訪れて」です。長野県からは日本で1番多くの人が満蒙開拓団に送り出されています。

記念館の寺沢館長はブログで

「2016年11月17日天皇、皇后両陛下が記念館を訪れた。・・・ご来館は両陛下の『強いご希望』によって実現・・両陛下は満蒙開拓という史実に対して国民のみなさんにもう一度目を向けてほしいという願いの元にご来館くださったものと思います。・・」しかし、テレビや新聞の報道は大きく無かったですとあります。　・・・岡邑(2019.6.18 メールにて)

いつものようにマンション玄関の植栽に水をやっていると
いつもの時間に、いつものお年寄りが、背中にゲートボールのステイツクを意気
に抱いで歩いてくる。

「こんにちは」

「ああ、こんにちは」

二言三言、言葉を交わすと、思わず言葉が飛び出した。

「16才で満洲行つてなあ」

「エーッ！」

「東京と書いてトンキンという処に着いてなあ」

「斉齊哈爾チチハルから牡丹江、寧按という所に行つてた。満蒙開拓青少年義勇軍で七千人の処から、三千人の処、三百人の処にも行つた。」

「鐵砲担いで十里、二十里と歩くんや。」

「わしは金沢から行つた。伝令係で山から山へ歩いた。どの山かわからへんの
に歩いた。ソ連のトーチカがすぐ見えるところまで行つた。」

「開拓団で20丁歩ほど貴つて開墾もした。一畝1000m²や。草取りにこつち
から行って、向こうから戻つてきてもう一日や。」

「耳が遠いので耳の近くで大声で話さないと会話にならない。」

「今、おいくつですか？」

「あんたと一緒に（笑）あんた七十台か、わしは九十歳台半ばや
「ハバロスクで捕虜になつて二年ほどいたけど、親切にしてくれた。日本が捕
虜いじめるのと、えらい違いや。」

「終戦間際に、気が付いたら関東軍がおれへん。みな先に逃げよつた。」

「寒かつたでしよう」

「寒かつた。」

「食べるものはあつたんですか？」

「わしは本部勤めやつたからよかつたけど…。」

「人間歩かなあかん。あんたも仕事するのは良いことや。頑張りなはれ。」
九〇歳半ばということで、耳も遠く、トンチンカンの会話も混じつたが、私よ
り少し小柄ながら、

「ゲートボールで一等賞や」

「自転車乗ると息子に怒られる。」

「人間歩かなあかん。あんたも仕事するのは良いことや。頑張りなはれ。」
お名前や、日本にいつどうやつて帰つたのか聞きたかったが、今度会つたら大
声で聴いてみましよう。

満洲の話が仕事先で聽けるなんて、嬉しくて忘れぬ間に書いてみた。

2019/6/17、弁天町から15分のマンション路上にて

●千秋さんより、メールにて投稿いただきました。（2019.6.18）

「今日、仕事先で、満州の話を偶然聞かしていただきました。体験者が身近におられ、偶然お話を聞かせて戴き、感激し、文章化し送ります。（添付）

なお、昂バリトンの大橋さんから 2019年2月24日付京都新聞の貴重なコピーを頂きました。

「女性抑留者 121 人の名簿、ロシア公文書館で発見、過酷な実態、解明端緒に「抵抗せず渡すこと」上官指示、791 部隊看護師ら証言」

地図、旧満州、ハルピン、方正、佳木斯、松花江、ハバロスク、アムール川。くわしくは最寄りの図書館等で新聞の閲覧をお願いします。

ソ連軍が要求した①酒②女に上官から性接待を受け入れるよう指示されたことなどが書かれています。」

（添付の文章）

「ああ、こんなには」	「二言三言、言葉を交わすと、思わず言葉が飛び出した。」	「16才で満洲行つてなあ」	「エーッ！」
「東京と書いてトンキンという処に着いてなあ」	「斉齊哈爾チチハルから牡丹江、寧按という所に行つてた。満蒙開拓青少年義勇軍で七千人の処から、三千人の処、三百人の処にも行つた。」	「鐵砲担いで十里、二十里と歩くんや。」	「今、おいくつですか？」
「わしは金沢から行つた。伝令係で山から山へ歩いた。どの山かわからへんの に歩いた。ソ連のトーチカがすぐ見えるところまで行つた。」	「開拓団で20丁歩ほど貴つて開墾もした。一畝1000m ² や。草取りにこつち から行って、向こうから戻つてきてもう一日や。」	「耳が遠いので耳の近くで大声で話さないと会話にならない。」	「あんたと一緒に（笑）あんた七十台か、わしは九十歳台半ばや 「ハバロスクで捕虜になつて二年ほどいたけど、親切にしてくれた。日本が捕 虜いじめるのと、えらい違いや。」
「人間歩かなあかん。あんたも仕事るのは良いことや。頑張りなはれ。」 九〇歳半ばということで、耳も遠く、トンチンカンの会話も混じつたが、私よ り少し小柄ながら、	「ゲートボールで一等賞や」	「自転車乗ると息子に怒られる。」	「人間歩かなあかん。あんたも仕事するのは良いことや。頑張りなはれ。」 お名前や、日本にいつどうやつて帰つたのか聞きたかったが、今度会つたら大 声で聴いてみましよう。
満洲の話が仕事先で聽けるなんて、嬉しくて忘れぬ間に書いてみた。	2019/6/17、弁天町から15分のマンション路上にて		No.694(5/5)